

第2章 都市構造上の課題の整理

1 都市構造上の課題

第1章 都市の現状と将来の見通しを踏まえ都市構造上の課題を抽出し、「しぼる」「つなぐ」「まもる」の項目で整理します。

項目	分析結果と課題
1-1 人口	・人口は、2045(令和27)年に2020(令和2)年の約22%減になる予測 ・老年人口割合は、2020(令和2)年の31.2%から2045(令和27)年の42.3%まで上昇する予測 ⇒【課題1】人口減少と少子高齢化の進展
1-2 土地利用	・2015(平成27)年から2045(令和27)年の人口密度の分布状況の変化をみると、多治見駅周辺等の一部では人口密度が維持されるが、郊外地域で人口密度が低下する予測 ・DID区域内の人口密度は市街地の拡大に伴い1970(昭和45)年から1980(昭和55)年の間で大きく低下し、その後上昇した時期もあるが、低下傾向へ転じる
1-3 都市機能	・宅地(住宅・商業・工業用地)は拡大傾向 ・世帯数と比べて総住宅数が多い ・2013(平成25)年度から2018(平成30)年度の5年間で空き家数は約1,200戸、空き家率は2.2%増加 ⇒【課題2】人口密度の低下、低密度な市街地の形成
1-4 公共交通	・市外縁部に保安林、風致地区、農地などが分布 ⇒【課題3】農地や森林などの自然的要素の保全
1-5 産業	・市街化区域に都市施設(医療、商業施設など)が集積 ⇒【課題4】人口減少下における都市施設の維持
1-6 地価動向	・人口減少、通勤・通学者の減少に伴う公共交通の利用者減 ・基幹的な公共交通路線の徒歩圏人口カバー率は約47% ⇒【課題5】過度に自家用車に依存しないと生活できない住環境からの転換
1-7 自然災害	・卸売業+小売業における年間商品販売額及び従業者数は回復傾向 ・窯業・土石業製品出荷額は2010(平成22)年以降は増加傾向にあるが、2021(令和3)年は前年と比べて166億円減少 ・工業における製造品出荷額は2011(平成23)年以降は増加傾向、従業者数は2009(平成21)年以降はほぼ横ばいで推移 ⇒【課題6】地場産業等の振興
1-8 行財政	・多治見駅周辺で地価が上昇している一方、多治見駅から離れた地点で地価が下落 ⇒【課題7】居住や都市機能の集約等による地価の維持
1-9 自然災害	・災害(主に土砂災害)の危険性の高い地域における住宅の立地 ・河川沿い、特に中心市街地では広範囲にわたり浸水する予測 ⇒【課題8】災害ハザード区域における市街地の形成
1-10 行財政	・生産年齢人口の減少による歳入減 ・高齢者の増加に伴う歳出増及び公共施設やインフラの維持管理費の増大 ⇒【課題9】持続可能な行財政の実施

課題	内容
しぼる (まとめる)	A-1 郊外地域に拡散した市街地を投資効果の高い都市構造へ転換…課題1、2、4、7、9 A-2 市街化調整区域(市街化区域外)におけるまちの拡散(宅地開発)の抑制…課題2 A-3 中心市街地における土地の低未利用地化の抑制…課題2 A-4 まちの人口密度の確保による、生活サービス施設(医療、商業施設等)の維持…課題4 A-5 多治見市の「顔」となる市街地の形成…課題4
つなぐ	B-1 自家用車を運転しない人でも快適に生活できるような移動手段の確保…課題5 B-2 多様な移動手段の連携による公共交通ネットワークの構築…課題5 B-3 名古屋市への通勤圏という立地特性を活かした中心市街地における集合住宅と、郊外地域の住宅団地における戸建住宅の維持・確保によるライフスタイルに応じた居住地の提供…課題2、5
まもる	C-1 高齢になっても安心して生活できる生活利便性の維持・確保…課題4、5 C-2 中心市街地や身近な地域における生活サービス施設(医療、商業施設等)の維持・確保…課題4 C-3 緑地や農地など自然的要素の保全…課題3 C-4 歴史的な背景を考慮した地場産業振興地区の保全…課題6 C-5 災害危険性が少ない地域における居住地の確保・安全性の確保…課題8

多治見市における都市構造上の主な課題

